



八王子国際フレンドからのメッセージ



韓国

留学生 朴 政泰（パク ジョンテ）

平成17年8月



皆さんこんにちは。お久しぶりです。最近真っ白で大きな雲を見かけるのが珍しくないですね。以前より雷や稲妻で驚くことも増えたような気がします。今日の空にも巨大な宇宙船のような、綿の固まりのような白雲がゆったりと流れています。

先月終わり頃ゼミ合宿に行ってきました。左側の写真はそのとき撮ったものです。場所は、スイスって言いたいところですが、実は日本の車山高原です。写真だけ見る限り本当のスイスと見間違えるくらいですね。僕は車山高原が初めてだったので、普段想像していたスイスの牧草地を見るような印象を受けました。皆さんもご存知の通り、スイスはアルプスの草原がとて有名でよく知られていますので、僕もアルプスに一度は行ってみたいと思っていましたが、大きさに言えば今回の体験でその夢の半分は叶えたような気がします。もちろん車山高

原とアルプスの草原にはそれぞれの良さがあると思います。

せっかくですので、今回は僕が訪ねたことがある日本の旅先の中で、未だに記憶に残る場所について話してみたいと思います。僕の初来日は1999年11月でした。当時の僕は会社に勤めていて、日韓技術交流の一環として日本の会社で技術研修をするために来日したのです。3ヶ月の研修の間に正月休みがはさまれていて、それを機に日本全国の旅にでました。全国旅行と言ってもあまり時間がなかったので、大半の時間を列車の中で過ごしました。1999年大晦日に世界の大勢の人が新たなミレニアムを祝うために騒いでいる間、僕は海底トンネルを前にして北海道行きの電車の中にいました。戻りの電車の時間までに余裕があまりなかったので、北海道に着いてから札幌の展望台に上って市内を一望したのがやっとでした。しかし、その短い旅の間でも僕を感動させた景色があります。戻りの電車は海岸沿いの絶壁の線路を走っていました。空には今日のように大きな雲が流れていて、雲の隙間から日差しが一直線で広大な海を一齐に輝かせた光景は今も忘れることが出来ません。そのような光景を、絶壁を走る列車から見下ろしていたので、感動が倍増したのではないかと思います。多分もう一度同じ場所を走ったとしても、同じ感動を味わうことは出来ないでしょう。その後も、仙台や名古屋、九州の別府などを旅しましたが、やはり時間的な問題でそれほどゆったりと色んなところを回ることは出来ませんでした。一週間で日本全国を回るとというのが最初から無理だったかもしれませんね。

その当時、研修プログラムの中には日本の名所を訪れるというのもありまして、奈良や京都、鎌倉などの日本の古都にも行きました。中でも京都の雰囲気特に印象に残っています。東京での時間が谷間に流れる激しい川だとすると、京都での時間は大河に流れる穏やかな河だといいたいでしょうか。時代や時間、さらに空間さえも心地よい風のように流れているようで、もう一度訪れてみたいところが京都ではないかと思えます。その後、帰国した後会社を辞めて留学生として再来日したわけです。学生は学生なりに色々な意味で余裕がないですが、日本の隅々に行ってみてみたいという希望は未だに捨ててはいません。いつかその日が来ることを願いながら、今日はここまでにしたいと思えます。では、皆さん次回にまたお会いしたいと思います。さようなら。